



Tohoku University School of Dentistry

東北大学 歯学部

さあ、新しい
インターフェイスの
可能性を開け

世界の歯学をリードする
独自の教育カリキュラムで
口腔健康科学を学ぶ

2018



始めよう、君たちのグロー



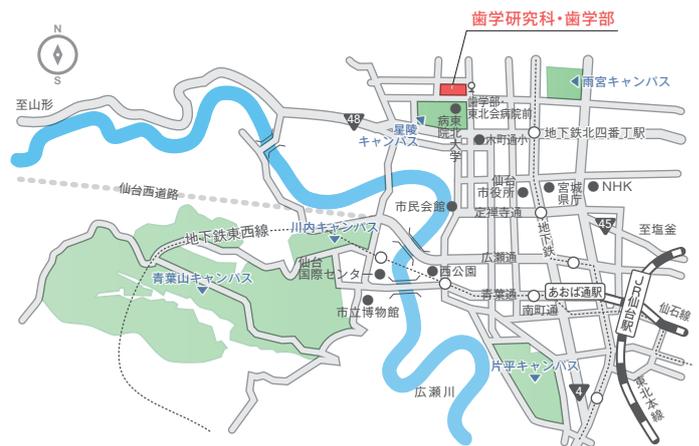
Welcome 「杜の都・仙台」の魅力 SENDAI

東北大学が位置する「杜の都・仙台」は、緑豊かな街並みに東北唯一の政令指定都市としての都市機能が充実しています。また、ちょっと足を延ばせば、豊かな自然にふれられるのも魅力です。

FOOTWORK 交通

高速バス、
新幹線、飛行機
の便利な
アクセス

仙台は高速バス（東京から約6時間・約4,000円～）、新幹線（東京から約1時間半・約11,000円）など、高速交通網に恵まれています。



バルインターフェイスの未来を。



東北大学歯学部で学ぶ 世界最高水準の総合教育

1907年の建学以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念、および「実学尊重」の精神を基として発展してきた東北大学に、歯学部が設置されたのは1965年のことです。

今年は創立50周年を迎え、これまで本学部は約2,500名の歯科医師や研究者を輩出してきました。もとより東北大学は、東京大学、京都大学に次ぐわが国3番目の国立大学として設置された日本を代表する総合大学であり、多くの学術的資産と優秀な人材に恵まれ、世界に誇る業績を有します。この伝統ある大学に設置された本学部は、我が国、さらには世界の歯学をリードする医療人、研究者を育成する使命を担っています。

私どもの教育目標は、単なる歯科医師の養成にとどまらず、「研究第一主義」に基づいた論理的な思考力を身につけた指導者、研究者となりうる人材の育成にあります。すなわち「考える歯科医師」の養成です。そのため学生自らが課題を探求し、その解決を図る楽しさを学び、学問に対する自発的な興味と意欲を高め、能動的に学習する習慣を身につける教育を実践しています。これらは歯のみに目を向けるのではなく、くち全体の健康を考える「一口腔一単位」、そして患者の身体・精神をも視野に含めた「全人的歯科医療」の理念に基づきます。本学部には、国際的に活躍できる歯学教育者・研究者や、高い思考力と専門性を備え、社会のリーダーとしての歯科医師、そして、将来の歯科保健医療を支える行政者を養成する体制が整っています。

仙台は緑に恵まれ、「杜の都」とも呼ばれます。またマリンスポーツからウィンタースポーツまで1年を通して自然を楽しめる環境にあります。さらに仙台は学都としても知られ、東北大学をはじめ多くの学生が暮らす街です。このような仙台の地へ、志を共にする新たな朋を迎え入れたいと願っています。



東北大学
歯学研究科長・歯学部長

佐々木啓一

HISTORY

歴史

広瀬川の清流と緑に恵まれた仙台は、約400年前に伊達政宗が作りあげた62万石の城下町。伊達藩の遺産である仙台城址、瑞鳳殿、輪王寺などが点在しています。



CORE-TOWN

タウン散策

仙台のショッピング&タウン散策には、一番町界隈がおススメ。牛タン、冷やし中華(仙台が発祥の地)、ずんだなどの仙台グルメも要チェック。

FESTIVAL

祭り

CULTURE

市民文化

仙台は「学都」の誇り高く、文化が薫る都市として、美術館や博物館の文化施設が充実。中でも、文化交流のステージ「せんだいメディアテーク」の活動ぶりは注目の。世界的な音楽コンクールの開催はもとより、交流イベント、展覧会など、市民の文化活動が盛んです。



目次

CONTENTS

| | |
|---|-----|
| 学部長あいさつ | |
| 東北大学歯学部で学ぶ 世界最高水準の総合教育 | →03 |
| 古くから続く日本の歯科医療、 今世界が注目する最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を育成します。 | →04 |
| インターフェイス口腔健康科学とは、何か。 | →06 |
| 歯学部のカリキュラム | →07 |
| 1、2、3年次のカリキュラム | →08 |
| 4、5年次のカリキュラム | →09 |
| 5、6年次のカリキュラム | →10 |
| 東北大学病院 | →11 |
| Campus Life 一歯学部生のキャンパスライフ | →12 |
| ホネットで語る。OB座談会 | →14 |
| 歯学部附属歯科技工士学校 School for Dental Laboratory Technicians | →15 |



古くから続く日本の歯科医療、 今世界が注目する 最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を 育成します。

東北大学歯学部で求める人物 (アドミッションポリシー)

歯学部の教育目標は、単に歯科医師の養成にとどまらず、論理的な思考力を身につけ、各分野で指導的立場となる人材を育成することにある。歯科医学の知識や技能を十分に修得できる基礎学力を有する人、問

題解決や知識追求に対する意欲を持ち常に前向きに考え行動する資質を有する人、幅広い視野と柔軟な感性を有する人、医療に携わるものとして豊かな人間性を備えた人を求めている。



世界と日本の歯学の歴史

18世紀、ヨーロッパで“近代歯科医学の父祖”といわれるピエール・フォーシャルによって総入れ歯や歯石除去などの近代的な歯科治療が行われ、19世紀に入るとアメリカではほぼ現代に近い歯科医療が始まったといわれます。ちなみに、アメリカにはジョージ・ワシントンの義歯が残さ

れていますが、日本では、それより古い16世紀後半につくられた木床義歯が、発見された最古の義歯として残されています。それを見る限り、日本の歯科医療技術が高い水準にあったことがうかがわれます。

1854年に日米和親条約が結ばれ、下田、函館が開港されるとともに外国人が渡来するようになりました。1860年には、アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレイキーが横浜で歯科医院を開業。アメリカの歯科医

師を通じて、欧米の近代的歯科医療に直接触れることができるようになりました。

そして1800年代末から1900年代初めにかけて、日本でも歯科医学校が設立され、歯科医師法が整備され、歯科医学会、歯科医師会が発足し、歯学が確立されたのです。黎明期、野口英世は高山歯科学院で給仕をしながら学び、後には講師となって講義を行ったというエピソードも残っています。

1965年、 東北大学歯学部発足

このような流れの中では、1965年に発足した東北大学歯学部の歴史は比較的新しいものです。しかし、その誕生、発展は「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」の理念のもと、独自の

ものでした。この理念を診療体系に持ち込むとなると、様々な専門的視点からの診断・治療方針を総合的に取捨選択しなければなりません。欧米には、例えば「I have four dentists」という言葉があります。歯科の専門化が進み、「4」は「プライマリーケア（口腔ケア）」「口腔外科」「補綴（歯の修復）」「エンドデンティスト（神経の

処置）」それぞれの専門歯科医を指しています。つまり、歯学とは、様々な視点から顎口腔領域の健康と疾患を理解し、生体全体の中に位置づけ、その予防、診断、治療の方法を開発し、健康を維持増進させる学問なのです。東北大学歯学部の卒業生は、考える歯科医となり、最善の診療・研究・教育に日夜邁進しています。

参考

歯学の歴史と東北大学歯学部の歴史を詳しく知るには……

▶「歯の歴史館」(1981年 日本医療文化センター発行)

▶日本歯科医師学会ホームページ <http://www.jsdh.org/>

▶東北大学歯学部同窓会ホームページ <http://www.tohoku-dent-alum.jp/>

近代歯科医学と日本の歯科医学の歩み

- 1723 フランスで、ピエール・フォーシャル(近代歯科医学の父祖といわれる)が論文『Le Chirurgien Dentist』発表
- 1728 フォーシャル、上顎総入れ歯を製作
- 1840 アメリカに、世界最初の近代的な歯科医学校ボルチモア歯科医学校誕生
- 1844 アメリカで、笑気を用いた全身麻酔下での抜歯を施行
- 1846 アメリカで、エーテル麻酔を用いて口腔外科手術を施行
- 1860 アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレイキー、横浜で歯科医院を開業
アメリカの歯科医療に直接触れることができるようになった
- 1876 瑞穂屋、わが国で初めて歯科器材をアメリカから輸入
国内でも、歯科器械の生産始まる
- 1878 1872年に私費留学した高山紀斎、アメリカで歯科医師開業試験に合格し、帰国
- 1881 高山紀斎、わが国最初の歯科専門書『保歯新論』発行
- 1883 医術開業試験規則が制定され、歯科が専門科目に
アメリカのミラー、「化学細菌説」を発表
- 1888 日本最初の歯科医学校である東京歯科医学校設立(翌年閉校)
- 1890 高山歯科医学校創立(1900年に東京歯科医学校に改称、1946年に東京歯科大学に改組)
- 1891 アメリカのブラック、歯垢がむし歯の原因であることを発見
- 1893 歯科医会発足(1926年、日本歯科医師会と改称)
- 1902 日本歯科医学会発足
- 1903 東京帝国大学医学部に歯科学教室開設
- 1906 歯科医師法成立
- 1911 歯科医学専門学校設立
- 1916 歯科医師法改正、医師の歯科医療行為を制限
- 1928 「ムシ歯予防デー」実施
東京高等歯科医学校(現、東京医科歯科大学)設立
国の歯科医師養成教育のスタート
- 1946 GHQの指示のもと歯科教育審議会発足
- 1947 歯科医師国家試験実施
- 1948 「歯科教育基準案」決定

歯学部・歯学研究科の歩み

- 1965 東北大学歯学部開設:「考える歯科医師の育成」「一口腔一単位」「全人的歯科医療」の理念提唱
- 1967 東北大学歯学部附属病院開院
- 1972 東北大学歯学研究科開設
- 1975 附属歯科技工士学校設置
- 1993 山本肇名誉教授「レーザー照射による齶触予防その他歯科応用に関する研究」で学士院賞
- 2000 東北大学歯学研究科で、大学院重点化を実施:「考究心」「科学心」をもつ指導的・中核的人材の育成を理念として提唱
- 2002 東北大学歯学研究科で、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱
- 2003 東北大学医学部附属病院と歯学部附属病院の組織上の統合
東北大学病院を開設
- 2004 わが国唯一の歯学研究科修士課程を設置
医歯学領域以外のキャリアの人材に口腔科学の専門教育を実施
- 2005 第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム開催
- 2007 歯科病床、手術室の移転により東北大学病院附属歯科医療センターと改称
文部科学省「生体バイオマテリアル高機能インターフェイス科学事業」開始
- 2008 附属歯科医療センターにインプラント外来設置
- 2009 歯学部歯学研究科講義棟リニューアル完成
- 2010 日沼頼夫名誉教授、文化勲章受章
東北大学病院外来診療棟に歯科部門として附属歯科医療センターが移転・統合
- 2011 歯学イノベーションリエゾンセンターの設置
- 2012 歯学部・歯学研究科臨床研究棟リニューアル完成
- 2013 環境歯学研究センターの設置
歯科法医情報学分野の設置
- 2014 臨床疫学統計支援室の設置
- 2015 先端再生医学研究センターの設置



MESSAGE

在学生からのメッセージ

歯学部 6年
福井ゆかりさん

口は体の中でも特に感覚神経の鋭敏な器官であり、また口とその周辺組織は、非常に密接に関係しています。例えば虫歯治療をした一本の歯を考えてみましょう。虫歯を削って詰めた銀歯の表面部分の高さが、たった数十マイクロメートル高いだけで、人はその銀歯を「高い、咬み合わせが悪い」と感じます。そして歯の咬み合せ

の高さにばらつきがあると、咬んだ時に顎がずれて、顎関節にストレスがかかります。そのずれに気付かず放置していると、やがて口が開けにくくなったりと顎関節部に痛みを感じる顎関節症に発展したりします。せっかく行った治療行為が、返って患者さんに対して危害を加えてしまう事態は引き起こさないようにしなくてはなりま

せん。そうならないために、まず生理学や解剖学といった知識のベースをしっかりと作り、患者さんの痛みや不快感に配慮した術式を身につけることが重要だと思います。

このように、歯学は基礎系科目の一事が万事、臨床に直結するので、とても勉強し甲斐のある奥深い学問です。是非、私たちと一緒に勉強しましょう！

インターフェイス口腔健康科学とは、何か。

① 「インターフェイス口腔健康科学」の誕生

これまで歯学(歯科医学)として認識されてきた学問体系は、口腔疾患の治療論が主体であり、その病因論や根本となる基礎歯学はむしろ細分化され、体系化からはほど遠いものでした。2002年、東北大学大学院歯学研究科は、細分化されてしまった個々の専門分野を繋ぎ、口腔科学として体系化、すなわち再構築するために、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱しました。口腔は、「歯・粘膜・骨・筋等の口腔組織

(生体)」、「口腔に寄生する微生物(パラサイト)」、「生体材料(バイオマテリアル)」の3つのシステムから成り立ち、この3システムに咬合力に代表される「生体応力(メカニカルストレス)」が加わるのが特徴です。「インターフェイス口腔健康科学」とは「健全な口腔機能は、システムとシステムの接するところ、すなわちインターフェイスが生物学的および生体力学的に調和することで成り立っており、う

蝕や歯周病、顎関節症などの口腔疾患はこれらシステム間インターフェイスの破綻によって生ずる「インターフェイス病」として捉えられる」という新たな概念に立脚するものです。

加えて、口腔そのものが、体内と外界とのインターフェイスであり、誤嚥性肺炎や消化管感染症等の口腔関連疾患もまたシステム間インターフェイスの破綻に起因すると理解されます。

② 「口腔のインターフェイス」から「学問のインターフェイス」、そして「社会のインターフェイス」へ

この概念は、口腔科学・歯科医療・口腔保健の領域を網羅するだけでなく、医学、工学、材料学、農学、薬学など多岐にわたる学問領域に通ずるものであり、「インターフェイス口腔健康科学」の実践によって歯学研究のさらなる推進、そして関連領域との学際的研究の活発化が可能となります。2007年には文部科学省から「生体—バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業」が認められ、東北大学金属材料研究所等とともに、インターフェイスの制御を目指した新しいバイオマテリアルの研究・開発と臨床応用に取り組みました。2012年からは「生物—非生物インテリジェントインターフェイスの創成事業」が後継として実施されました。これらは、既存の学問分野を接合し新しい学問を創成すると

いう「学問のインターフェイス」の具現化なのです。

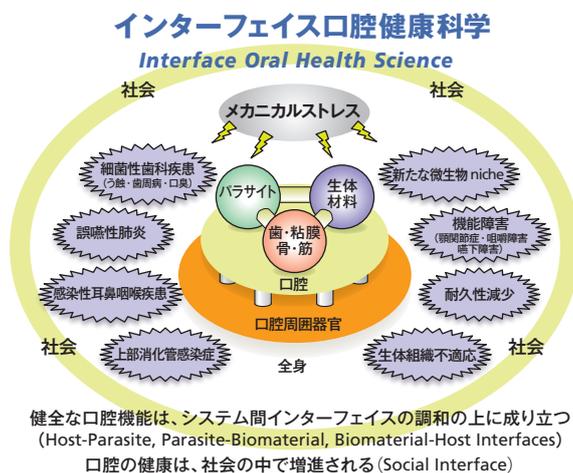
さらに、健全な口腔機能を地域社会や国際社会で実現するためには、地域社会や国際社会との双方向コミュニケーションが不可欠です。すなわち、地域住民の口腔健康状況を把握しそこにある問題点を解決し地域に還元すること、海外の口腔保健状況を把握し必要なことを導入するとともに、海外と連携し日本の研究成果を国際社会に還元することが必要なのです。

本研究科は、2011年に「歯学イノベーションリエゾンセンター」を設置、その中に「国際連携部門」と「マルチセクション地域連携部門」を置き、それぞれを海外との連携および地域との連携の要としました。国際連携部門を通して、米国(ハーバ

ード大学)、カナダ(プリティッシュコロンビア大学)、英国(キングスカレッジロンドン大学)、スウェーデン(ウメオ大学)、フィンランド(オウル大学)、アジア(北京大学、四川大学、上海交通大学、天津医科大学、大連市口腔医院、福建医科大学、香港大学、中国；ソウル大学、全南大学校、延世大学校、韓国；国立台湾大学、国立陽明大学、台湾；チュラロンコン大学、プリンスオブソクラ大学、コンケン大学、タイ；アイルランガ大学、インドネシア；VSデンタルカレッジ、インド；モンゴル国立医療科学大学、モンゴル)、オセアニア(シドニー大学、オーストラリア)の基幹校と国際学術提携を結んでいます。これら2つの部門は「地域社会・国際社会とのインターフェイス」として、大きな役割を果たしているのです。

③ 「インターフェイス口腔健康科学」の世界への発信

「インターフェイス口腔健康科学」の概念は、現在、次世代の歯学・口腔科学として国内外に広く認められています。2005年には仙台にて「第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム(International Symposium for Interface Oral Health Science: IS-IOHS)」を開催し、国内外から多くの研究者が集まりました。その成果は英文書籍としてまとめられ世界に発信されています。以降、本シンポジウムは約2年毎に開催され、2016年には第6回目を迎えました。各シンポジウムでは、仙台の地に加え、ハーバード大学フォーサイス研究所(米国)、北京大学(中国)、ソウル大学(韓国)、シドニー大学(オーストラリア)等と共催で、海外でサテライトシンポジウムを開催しており、「インターフェイス口腔健康科学」はますますその広がりを見せています。その基盤は、歯学・口腔科学の独自性と他の学問領域との普遍性を持つ独創的な研究への希求、そこに集う研究教育者と大学院生の情熱、そして国際的・学際的・融合的な研究への指向という、歯学研究科が持つ特質にあるのです。



(Curriculum)

歯学部のカリキュラム

6年間で歯科医師として必要な知識と臨床技術を修得します。

本学部のカリキュラムは、早期に歯学・歯科臨床の概要を学び歯学生としての自覚を涵養する「導入科目」、歯科医師として必要となる基礎歯学と臨床歯学を学ぶ「コア科目」、東北大学歯学部独自の科目で大学院進学や高度専門職への準備となる「アドバンス科目」、そして歯科臨床の実体験を通して学ぶ「臨床実習科目」からなります。本カリキュラムは、臨床実習前に実施される全国共通の「共用試験」に対応しているばかりではなく、歯科医師国家試験にも充分対応しています。さらに、「アドバンス科目」には大学院を先取りした「プレ大学院科目」として「歯学基礎演習」と「基礎研究実習」が含まれており、歯学部卒業時に、既に大学院で学ぶ考え方も身に付くように工夫されています。



6年間のステップ



1、2、3年次のカリキュラム

東 北大学歯学部の学生は、1、2年生で、広い視野と柔軟な思考力をもった歯科医師になるために、人間形成の根幹となる基本的教養を学習する「基幹科目」、専攻する専門分野を学ぶうえで基礎となる知識と技能を習得する「展開科目」、外国語および保健

体育などの「共通科目」からなる全学教育を受講します。全学教育では、小人数クラスで、総合大学である東北大学の全学部と全研究所の教員が開講する「基礎ゼミ」が必修で、広い学問領域から自分の専攻を超えて授業を選択します。一方、入学直後から最初の専門教育科目として、最新の歯学の概要にふれる「歯学概論」と歯科診療の現場を体験する「歯科臨床入門」との2つの導入科目を受講します。2年生からはコア科目と呼ばれる歯科医師となるために必須の専門教育科目が始まります。学生は、まず、解剖学、組織学、生理学、生化学、細菌学、免疫学、薬理学、病理学といった一般医学と同等の内容を含む基礎系科目を学び、その上で、口腔解剖学、口



腔組織発生学、口腔生理学、口腔生化学、口腔細菌学、歯科薬理学、口腔病理学、歯科生体材料学などの歯科医学教育独自の基礎系科目を履修します。さらに3年生からは、歯科保存学、予防歯科学、小児歯科学、矯正歯科学など、臨床系科目も始まります。基礎系、臨床系とも、講義に加えて自ら体験して学習する実習の割合が高いことが歯学部のコア科目授業の特徴です。



授業紹介



「人体の細胞と組織」 「口腔の細胞組織と発生」

組織学授業「人体の細胞と組織」では、人体において、多種多様な細胞が秩序よく配列さ

れて組織や臓器をつくり、さらに個体を構成することを学びます。口腔組織発生学授業「口腔の細胞組織と発生」では顎、顔面および口腔と歯のでき方と構成について、より詳しく学習します。どちらの授業でも、講義に加えて、顕微鏡で組織標本を観察する実習の時間があり、実際に自分の目で細胞や組織の特徴を捉え、所見をまとめる力を養います。

笹野泰之教授



「人体の構造」「歯のかたち」

2年次に人体、特に口腔領域の形について学びます。「人体の構造」では人体解剖の講義や実習により全身の仕組みや役割を、「歯のかたち」では実物の歯(抜去歯)の観察によりヒトの歯の形を理解します。これらの講義や実習によって、歯科医師として最も基礎的で必須の知識を身につけることができるとともに、人の生と死や医の倫理についても考えます。

市川博之教授



「くすりの科学」

3年次「くすりの科学」では、歯科で頻繁に用いられる化学療法薬、抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消毒薬のみならず、末梢神経系・中枢神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系に作用する薬物も含め、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの作用と作用機序を学びます。この科目を理解するには、2年次から学ぶ専門基礎科目の知識が必要です。

若森実教授



「歯科生体材料の科学」

歯は、自然治癒や再生が難しいため、歯科治療の多くは人工の材料を使用してかむ機能を回復させます。歯科生体材料学分野では、最先端の材料科学を駆使して歯科修復材料からインプラント材料まで新しい歯科生体材料の開発やこれらの材料の口腔内環境下における劣化と安全性などを研究しています。大学教育では、歯科の治療に用いられている歯科材料全域についての講義や実験を担当しています。

高田雄京准教授



(Curriculum)

4、5年次のカリキュラム

4、5年生は最も多く臨床科目を学ぶのみならず、これまでに習得した知識と技術を統合していく時期に当たります。4年生のコア科目では、歯科医師として診療をしていくのに必要な臨床科目が最も多く開講されます。ここで学生は、口腔の様々な疾患のメカニズムやその診断・治療法を学びますが、各科目には講義だけではなく模型実習が多く含まれています。5年生は東北大学歯学部独自のアドバンス科目が展開される学年で、最先端の研究成果に基づいた新たな時代の「口の科学」に関する様々な講義が行われると共に、これまでに学んだ知識・技術を統合していくために「歯学臨床ゼミ」、「合同講義」や「臨床シミュレーション実習」などが開講されます。



特に平成25年度より新たな試みとして、統合型病態模型を用いた模型実習を「臨床シミュレーション実習」に導入しました。これにより、これまで各科目で行われていた実習に関する知識・技能を有機的に連携させるばかりでなく、総合的診断力や問題解決能力を涵養することを目指します。また、臨床実習に必要な知識・技術・態度が十分に備わっているかを確認するためのテストであるCBTとOSCEが5年生の7月に実施されます。これは全国の歯学部学生に対して行われるものですが、これをパスしないと臨床実習に進むことはできません。またこれからの歯科医師は全身状態や疾患についての深い知識が要求されますので、5年生は「隣接医学」として内科学や耳鼻咽喉科学などを学ぶことになっています。さらに本学では、5年生の段階で歯学研究者としての基本態度を学ぶ「歯学基礎演習・基礎研究実習」を実施し、大学院レベルでの研究を体験すること



ができます。この授業では、学生一人ひとりが歯学部の基礎系分野を選択して研究室に所属し、約8ヶ月間に渡り、英語の学術論文の読解指導を受け、さらに研究の実践を学びます。この間、学生は教員にほとんどマンツーマンで接し、研究者や高度専門職業人として必要な「研究する心(リサーチマインド)」と「常に考える精神」を身につけます。この授業をきっかけに、臨床を科学する重要性を学ぶと共に多くの学生が研究に関心を抱き、卒業後に大学院進学を目指しています。

授業紹介



「口腔修復学Ⅰ」

口腔修復学Ⅰでは、保存修復学の講義と実習を行います。講義は総論と各論に分かれ、総論では保存修復に必要な前処置、窩洞形態の一般法則、徐痛法、歯髄保護、仮封、窩洞形成法を学習します。各論では、審美修復(接着性コンポジットレジン修復、ポーセレンインレー、漂白法)と金属材料によるインレー修復法を習得します。実習では、基本的なレジン修復症例とメタルインレー症例をシミュレートし治療姿勢、器材の使用法、窩洞形成法、修復法を習得します。

齋藤正寛
教授



「口腔病態外科学Ⅱ・Ⅲ」

口腔外科は、口腔および顎顔面領域の先天異常、後天性の欠損や損傷、口腔に現れるさまざまな疾患および全身疾患の一症状として口腔や顔面に異常をしめす疾患などの診断と治療および障害された形態と機能の外科的な回復を扱う学問であり、医科と歯科の境界に位置し、医科と歯科の双方の総合的な知識が必要となります。本講義では歯科医師として必要となる、これら口腔に現れる様々な疾患の種類、診断と治療法について最新の知見を教授します。

高橋哲
教授



「口腔保健発育学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

口腔保健発育学では、2つの学年を通して、ひとの誕生から成人期までの口腔機能の健全な発育の誘導と支援について学びます。子どもの健全な口腔の育成は、生涯を通じた健康の基となり、「食べる」「話す」「笑う」の生きる力の源となりますので、子どもたちを医療者として慈しみ健康を支援できるようにしっかり学んで下さい。本講義は、予防歯科学分野、小児発達歯科学分野、顎口腔矯正学分野、障害者歯科治療部が担当します。

小関健由
教授



5、6年次のカリキュラム

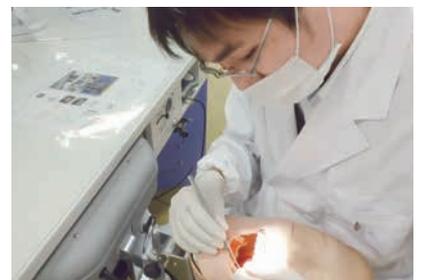
臨床実習は歯学部教育の最終課程と位置づけられています。5年生後半から6年生にかけての1年数ヶ月、実際に患者さんの治療を担当することにより、歯科医師としての知識・技術・態度についての総仕上げを行います。本学部の臨床実習は、建学以来「人間尊重」・「人間単位」の実習形態を追求し、その結果、「一口腔一単位」の臨床実習が行われてきました。「一口腔一単位」の意味するところは、単に個々の歯を治療の対象とするのではなく、人を対象として全人的見地から口の中

を診査、診断し、包括的医療を実践する診療形態です。患者さん中心の歯科医療、患者さんに対する畏敬や思いやり、倫理観など医療人として身につけるべき基本を学び、併せて自己研鑽すなわち「人間形成」に努めるという教育理念がここに 있습니다。この形態は東北大学歯学部独自のものであり、他大学からも高い評価を受け、現在では多くの歯学部・歯科大学で取り入れられています。

臨床実習では、約100名の教員（歯科医師及び医師）が実際の指導に当たっ



ています。学生数に比べて教員数が多いことも本学部の特徴であり、学生にとっては恵まれた環境のなかで実習を受けることができます。



COLUMN

歯科実習用 人型ロボット SIMROID® (シムロイド)

表情豊かで、おしゃべりなロボットです。なかなかの美人です。痛みや不快さを与えると、人と同じ反応をします。しっかりとした技術を練習しましょう。国立大学では唯一です。





東北大学 病院

Tohoku University Hospital



東北大学病院の紹介

東北大学病院は昨年創立100周年を迎えた歴史と伝統のある病院です。病床数は1225床を数え、全国の国立大学病院の中でも1、2を争うトップクラスの規模を誇っております。外来患者総数は1日あたり約3,000名、入院患者総数は1,300名に及びます。この中で歯科部門の外来患者数は約600名を超えています。当院は特定機能病院として患者様からの信頼が厚く、また基幹病院として東北地方はもとより、全国、さらに海外からも患者様が来院しています。

東北大学では、医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、平成22年1月からは東北大学病院として、医科と歯科がひとつの病院のなかで連携して診療しています。病院が統合されたことで、医科と歯科の連携が高まり高度な医療が可能となっています。口の中に症状を呈する病気の多くは、その原因が口そのものがありますが、ときに全身の病気の初発症状や随伴症状が口に現れる場合があります。一方、口の病気が原因となり、重篤な全身の病気を引き起こすこともあります。このような病気に対する医療では、医科歯科連携診療が重要となるのです。歯科の部門は外来C棟の3階から5階までに入っており、それ以外に病棟では10階東病棟に顎口腔外科、歯科麻酔疼痛管理課、障害者治療部で32床の病床を持っています。病院は医師、歯科医師、だけではなく、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、放射線義歯、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士さんなど、たくさんの職種で成り立って、全体としてチーム医療を行っています。

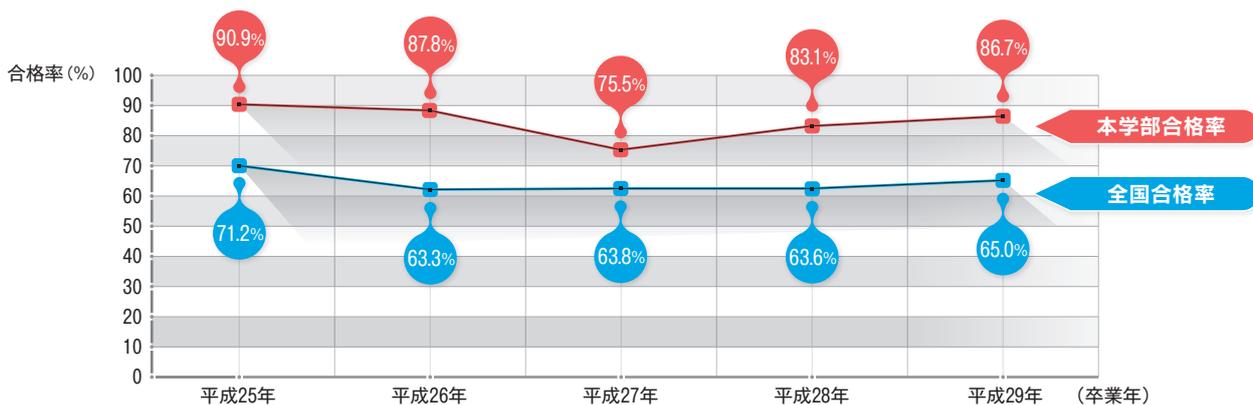
また、当院は、患者さんに優しい医療と先進医療の調和を目指し、最先端の医療技術の開発や着実かつ独創的な研究を推進しています。昨年には臨床研修中核病院としての国の指定を全国で初めて受けました。また人間性豊かな医療人を養成する教育機関であり、医学部・歯学部・薬学部の学生教育はもとより、医師・歯科医師の臨床研修や生涯研修を行っています。

歯学部入学後は、東北大学病院で臨床教育を受けることになります。患者さんから多くのことを学び、世界の歯科医学・歯科医療をリードできる心温かい指導的人材を目指して下さい。



東北大学病院総括副院長
高橋 哲 教授
(顎顔面・口腔外科学分野)

歯科医師国家試験合格状況



卒業後の進路

卒業後は、大学病院等の研修医を経て、大学院進学、開業医勤務等、ほぼ全員が歯学研究または歯科医療に携わっています。



*多くの場合、学会認定専門医は数年間、指導医の元で研修することが必要となります。大学院生として指導医の元に就学すると、専門医取得が容易となります。



歯学部4年 武田 桜さん

目の前のことに真摯に向き合い、充実した日々を送っています。

3年次から臨床系科目が始まり、実習が授業の大半を占めるようになりました。臨床系科目は興味深く、歯科医師としての将来像をさらに意識し始めました。限られた実習時間の中で多くのことを学びとることができるように、授業以外でも自ら積極的に学習し、理解を深めています。思い通りにできず悩むこともありますが、友人と助け合いながら、充実した日々を送っています。

サークル活動としては歯科医療研究会に所属し、様々な活動を行っています。活動を通じて知識を身に付けたり、他の学年や外部の方々と関わったりという貴重な経験をしています。また、授業後はアルバイトとして学習塾の講師をしています。聞き手が理解できるように説明するという力を身に付けたいと思っています。

歯学生としての学生生活も後半に入ります。多くのこ

とを吸収し、日々精進していきたいです。



Schedule
スケジュール



歯学部 サークル紹介

大学のサークルの他に、歯学部学生だけで構成されるサークルもあります。



㊦ 弓道部



㊦ 軟式庭球部



㊦ 硬式庭球部



㊦ 硬式野球部



㊦ ゴルフ部

㊦ サッカー部



歯学部5年 横田 智恒さん

将来の歯科界をリードする歯科医師を目指して勉強と部活を頑張っています。

5年次では、2年次から始まったコアカリキュラムの講義をほとんど終えて、多くの授業は、最新の研究についての講義、少人数のグループを組み一つの症例について診断・検査・治療などあらゆる段階において出てくる様々な疑問を自分たちで解決する歯科臨床ゼミ、論文抄読など、これから先の研究や臨床を見据えた発展的なものになっています。コアカリキュラムと比べてより自発的な学習が求められるので、授業にむけての準備が大変ですが、これまでに

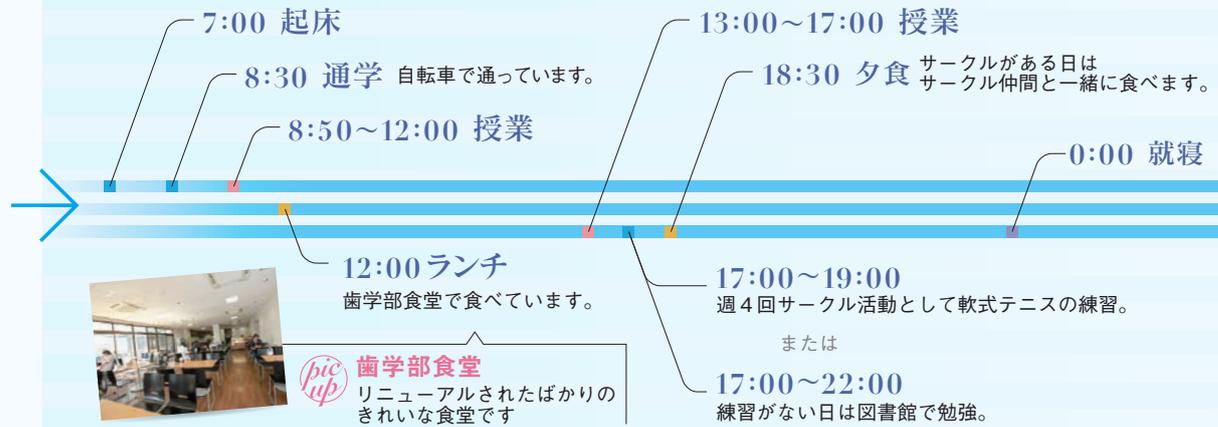
得た知識の整理ができたり、その知識を使って学習を進められたりすることに充実感を覚えています。同時に、12月から始まる臨床実習に出るために通過しなければならない、共用試験に向けての勉強も進めています。また、週に4回ある部活では軟式テニスをして夏の大会で成績が残せるように練習しています。部活は、先輩後輩のつながりが強く仲が良いので、部活仲間との交流は大学生活をより楽しくさせてくれます。

日々の勉強、部活などこな

すことが多く忙しいですが、将来の歯科界をリードしていきけるような歯科医師を目指して、日々充実感を得ながら頑張っています。



Schedule
スケジュール



④水泳部



④卓球部



④バスケットボール部



④軽音部



④陸上部

④剣道部



④バレーボール部



④バドミントン部



④歯科医療研究会

歯学部を志した理由

草間 僕は生物関係の勉強をしたいと思っていたので歯学部を考えるようになりました。子どもの時にそんなに病院に行かなかったのが、医師が何をしているのかわからなかった。でも歯科にはよく行っていたので、何をやるかがある程度わかっていたので面白そうだなと思って入りました。

野口 歯科の仕事を親の影響で見えてきました。僕にとって歯科医師は身近な職業です。他の学部も迷ったのですが、ほかの学部に行っても何になれるのか漠然としていましたが、歯学部では歯科医師になることが明確で歯学部に入ろうと考えました。また、例えば工学部のような学部だと間接的にはいろいろと人を助けることができるかもしれませんが、歯学は目の前にいる困っている人を自分が直接助けられるので仕事に着きたいと思いました。



齋藤 私は大学に入る前から、細菌が体の中に入るの口からだという意識がありました。最初の段階で口の中をきれいに出れていたら、病気もなくなるんじゃないか、全身の状態も良くなるんじゃないかと考え、歯に興味を持ちました。もともと医学系に興味があって、最初は医学部に向けて頑張っていました。でも医学部に行くと、死に直面する機会がすごく増え、自分が死に直面することにどこまで耐えられるのかどうかわからなくなりましたが、全身管理をやりたいという気持ちは強くありました。東北大だと医学部の診療科との連携もあり、歯科も外科だと、入院病棟にも行きます。病棟で全身疾患を持っている患者さんの管理もするし、癌の切除の手術予定の患者さんの術前術後の管理もするので、自分の興味ある分野を見つづ勉強できるところだと思って選びました。

大堀 医療系志望だったのですが、歯学部を志したのは最後のほう、夏休み頃です。理由の1つは身近だったこと。2つめは口の中で歯がなくなったところに入れ歯のように小さいものや銀歯を入れびつたりはめるのがすごいなと感動したから

ホンネで語る。

OB 座談会

東北大歯学部で6年間学び、卒業した後に現在、研修医として臨床や研究に励む皆さんに、歯学部で学んだ感想や学生生活、これからの目標などについて語っていただきました。

です。小さな口の中の歯という組織を元の状態に近づける、入れ歯についても無くなったところに代りになるものをはめるのは面白いと感じました。

東北大を選んだ理由

大堀 私は将来、研究者になることに興味があったので研究第一に熱心にやっているところという意味で志望しました。東北大は歯学部だけではなくいろいろな学部もある総合大学なので、単科の大学では出来ないことも総合大学ならできると思って、自分の力と距離的な近さから選んだのです。

草間 東北大と他大学のオープンキャンパスに複数に行きました。他大学ではオープンキャンパスのときにやる気を感じられなかったです。東北大のオープンキャンパスでは診断の笹野先生が学部長で全部1から10まで指導しますということをおっしゃっていました。笹野先生だからだとは思のですが、とても魅力を感じました。歯学部という6年間を実際に熱心に教育に力を入れているということが僕には感じられたので東北大にしました。

東北大の特色

草間 大震災の跡も少なくなってきましたが、経験者がたくさんまだ大学に残っているので、これから入ってくる人たちもそこからたくさん学べるのではと思います。また5年生のうちから研究室に行くのは歯学部、医学部どちらも良く

聞くんですけれども、基礎だけを生業としている研究室に行くというのは少ないと思います。それに対応できるだけの研究室があるということが特色だと思います。

野口 私立の場合は6年生になると国家試験に受かるための予備校化するのがほとんどだと聞いています。でも、うちの大学や国公立は6年生になっても、しっかり臨床実習をします。ほかの大学だったら皆普通に卒業して研修を積んで開業して歯医者になると思います。でも、僕たちは大学院に進む人が多いので、視野が広がります。東北大に入ったからこそ、臨床だけをやっていく歯医者の道だけじゃないんだと、気づけたのかなと思います。

6年間の学びの感想

大堀 私が大学院に入った理由は、学部の6年間は基礎編で歯医者になる人が学ぶところで、その先を学ぶところが大学院だからです。研修医のときは、ある意味、ほかの勉強から離れて臨床1本でやっていたのですけれども、物足りなくて、更にいろいろ学びたいという気持ちがありました。基礎的なことと基本的な歯医者の技術と国家試験に向けての勉強を全部6年間で学んで来て、その先ですね。専門医に特化した、あるいは専門的な研究をするのが大学院なので。

齋藤 進む方針を決められたのは、臨床実習で出会った先生方がいらっしやっただけからです。この先生の処置は見たいな、あの先生の下で学びたいなと、そう思わせてくれる先生が数多くいらっしやいました。自分が疑問に思ったことをいろんな先生に聞くことができ、いろんな考えや技術を持っている先生に教えていただけなのはすごく良かったと思います。

大学院生
齋藤 志都さん



大学院生
野口 隆弘さん



大学院生
大堀 悠美さん



大学院生
草間 太郎さん





歯学部で 学ぶ魅力

将来の目標

野口 臨床のメインは、矯正歯科でやっていきます。もともと興味があった矯正の勉強をしながら、研究をすることにな

ると思います。研究はまだどういふことをするのか、決まっていません。矯正なので、骨の代謝に関わるメカニズム、骨の研究に関わることになるかもしれません。そういう部分に関わりながら、患者さんにとって矯正治療の負担がまだまだ大きいので、矯正に貢献できるような研究に携われたらと思います。自分がやっていることが、矯正の骨の移動だけではなく、医学的な骨の疾患とかにも関わっていただければいいのかなと思います。

齋藤 私は口腔外科に興味があって進んだんですけども。まだ外科で何をやりたいのかがわからないんです。自分が何をやりたくて、どこに進むのかを決めるのが、今現在の目標です。東北大の場合、いろいろな症例を診れるので、手術をやりたいのか、それとも小手術(手術室を

使わないくらいの処置のもの)をやりたいのか、それとも研究をやっていききたいのか、それを決めて進めたいなどと思います。あと医療者として人格的に、この人に診てもらいたいと言ってもらえるような医療従事者になりたいです。

本校の教育理念

- 1 東北大学の輝かしい歴史と伝統のもと、優れた教育環境と高度なカリキュラムにより歯科技工界の指導者となる人材。
- 2 高い倫理観と使命感を備え幅広い視野をもって社会貢献できる高度専門医療人としての歯科技工士を目指す人。



歯学部附属 歯科技工士学校

School for Dental Laboratory Technicians

学校長挨拶



歯学部附属
歯科技工士学校長
菊池 雅彦 教授

本校は、東北大学歯学部附属する歯科技工士学校であり、東北・北海道地方で唯一の国立大学法人の歯科技工士養成機関です。本校は、東北大学歯学部が創立されてから10年後の昭和50年4月に、歯科技工界のリーダーとなる歯科技工士の育成を目標として設置されました。本校が設置されている星陵キャンパスは、仙台市の中心部に位置し、歯学部・歯学研究科、医学部・医学系研究科、加齢医学研究所、東北大学病院が集まって、東日本の歯医学教育と先端医療の一大拠点を形成しています。

本校の修業年限は2年間で、教育内容は非常に豊富で多岐にわたっています。歯科技工に関する知識と技能をもたない入学者を、2年後には国家試験に合格できるレベルにまで到達させるカリキュラムが組まれています。本校では3名の専任教員の

ほか、東北大学歯学部・歯学研究科の教授、准教授を含む多数の非常勤講師陣を擁し、様々な分野の知識や技術を教授しています。2年次には東北大学病院での臨床技工実習が組み込まれており、実際の患者さんに装着される技工物の製作から治療見学まで行う充実した内容となっています。

近年の歯科医療の発展はめざましく、コンピュータ技術の進歩に伴って開発されたCAD/CAM機器の歯科技工への応用のほか、新たな生体材料や骨再生を応用したインプラント治療などが歯科医療に取り入れられています。これら最新のテクノロジーに対応できる、人間性豊かで優秀な21世紀を担う歯科技工士の育成に取り組んでいます。将来、有望な歯科技工士となる意欲をもった学生諸君と本校でお目にかかれる日を心からお待ちしております。

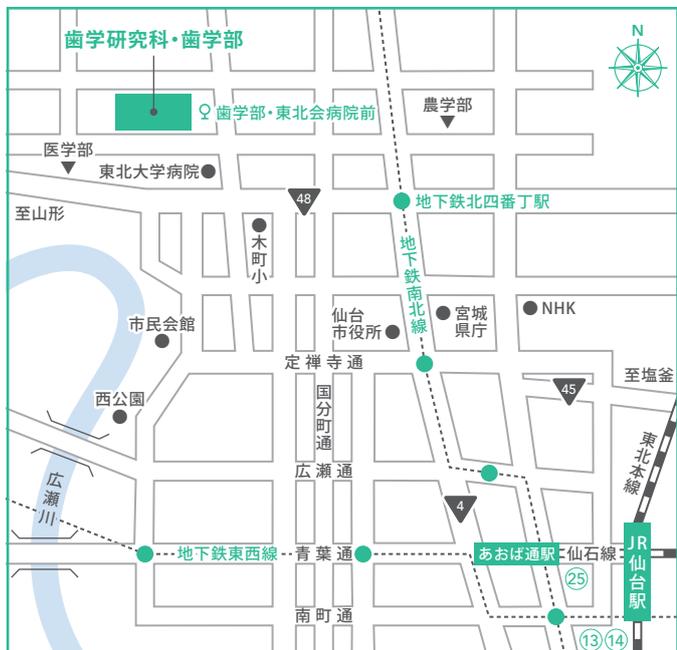
カリキュラム紹介

本校の修業年限2年間のカリキュラムは、大きく4つの段階に分けられます。1年次の前期課程では、歯科医学の中から歯科技工士に必要な歯科英語や歯の解剖学、歯科理工学、有床義歯学、歯冠修復学などの講義と歯の彫刻実習が行われ、“歯を作る”ための大切な基礎を学びます。続いて後期課程では、主に歯列模型により実際の技工物を製作する実習が行われるようになり、歯科矯正学、小児歯科学などの講義や実習も加わります。2年生に進級後の前期課程では、実際に患者さんに使用される金属や材料などを使用し臨床をシミュレートした実習が行われ、後期課程では2年間の総仕上げとして東北大学病院での臨床技工実習が行われます。この臨床技工実習は、本校な



らではの特徴的なカリキュラムであり、診療室で学生が自作した技工物の装着に立ち会うことにより、医療人としての自覚を促すとともに、卒業後にスムーズに就業できるような工夫がなされています。





ACCESS / 仙台駅からの交通手段

仙台市営バスご利用の場合

仙台駅西口バスプール⑬番乗り場から
「山手町経由 桜ヶ丘七丁目行き」で、
「歯学部・東北会病院前」下車

仙台駅西口バスプール⑭番乗り場から
「北山トンネル・中山経由北中山・西中山行き」
「北山トンネル・中山・泉ピレージ経由 住吉台・根白石行き」で、
「歯学部・東北会病院前」下車

仙台駅西口バスプール⑳番乗り場から
「青葉通・大学病院経由 子平町ー北山循環」で、
「歯学部・東北会病院前」下車

地下鉄ご利用の場合

「北四番丁」で下車 北口2番出口より八幡町方面へ徒歩約10分

東北大学大学院歯学研究科・歯学部

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号
TEL:022-717-8248 FAX:022-717-8279
HP: <http://www.dent.tohoku.ac.jp/>
E-mail: den-kyom@grp.tohoku.ac.jp